

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅰ	PC	11201	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
石島 多恵／森 晴美／中園 佐恵子／渋谷 美智	必修	1			

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に着けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- (1)オリエンテーション(大学生としての姿勢)
(2)言語1
- (1)言語2
(2)オリエンテーション(本学の学生としての姿勢)
- 図書館案内
- (1)言語3
(2)クラスでの自己紹介
- (1)言語4
(2)授業の受け方
- (1)社会1
(2)学生生活(学生相談)
- (1)社会2
(2)学生生活(課外活動1)
- (1)社会3
(2)学生生活(課外活動2)
- (1)社会4
(2)理解と表現(作文など)
- (1)数学1
(2)理解と表現(比較分析)
- (1)数学2
(2)リサーチの方法(情報の集め方)
- (1)数学3
(2)リサーチの方法(レポートの作成)

- (1)数学4
(2)簡単なプレゼンテーション
- (1)確認試験1
(2)マナー
- (1)確認試験2
(2)スタディスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育仲社）
3訂 大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック（ナカニシヤ出版）

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席1回につき合格点は1点上がる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト10クリアすることとする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務j課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅱ	ET	11205	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人／佐伯 瑠璃子／吉野 美智子／酒井 新一郎／有村 理	必修	1			

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- (1)言語1
(2)言語活動(PCの使用実践)
- (1)言語2
(2)言語活動
- (1)言語3
(2)言語活動
- (1)言語4
(2)共同作業
- (1)社会1
(2)共同作業
- (1)社会2
(2)言語活動(PC使用実践)
- (1)社会3
(2)言語活動
- (1)社会4
(2)言語活動
- (1)数学1
(2)言語活動
- (1)数学2
(2)言語活動
- (1)数学3
(2)言語活動
- (1)数学4
(2)言語活動(合唱練習)

- (1)確認試験1
(2)言語活動(ディスカッション1)
- (1)確認試験2
(2)言語活動(ディスカッション2)
- (1)確認試験3
(2)言語活動(PC使用実践)

授業の方法

演習形式

準備学修

テキストでしっかりと、予習・復習すること。eラーニングを活用すること。準備学習には60時間以上かけること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育仲社）

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を盗らなければ不合格とする。欠席1回につき、合格点を1点上げる。eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。教学カルテも評価対象とする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅱ	PC	11205	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
石島 多恵／森 晴美／中園 佐恵子／渋谷 美智	必修	1			

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学に必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に付けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

1. (1)言語1
(2)オリエンテーション
2. (1)言語2
(2)資料の探し方(情報検索)
3. (1)言語3
(2)レポートの書き方1
4. (1)言語4
(2)レポートの書き方2
5. (1)社会1
(2)レポートの書き方3
6. (1)社会2
(2)プレゼンテーションの方法1
7. (1)社会3
(2)プレゼンテーションの方法2
8. (1)社会4
(2)プレゼンテーション1(個人発表)
9. (1)数学1
(2)プレゼンテーション2(個人発表)
10. (1)数学2
(2)プレゼンテーション3(個人発表)
11. (1)数学3
(2)プレゼンテーション4(個人発表)
12. (1)数学4

- (2)ディスカッションの進め方(個人発表)
13. (1)確認試験1
(2)ディスカッション1
14. (1)確認試験2
(2)ディスカッション2
15. (1)確認試験3
(2)アカデミックスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト(育伸社)
3訂 大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック(ナカニシヤ出版)

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を盗らなければ不合格とする。欠席1回につき、合格点を1点上げる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト20クリアをすること。教学カルテも評価対象とする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海星学Ⅰ		11206	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
各学科教員	必修	1			

授業の到達目標

神戸海星女子学院大学の建学の精神や歴史についての理解し、本学の学生としての自覚を深める。人格的素養としてのKAISEIパーソナリティの項目についての学びを通して、各自の考えをもち、内面的に自らを磨く。それに並行しキャリアプログラムと合わせ、自身のキャリアデザインを築いていく。

授業の概要

KAISEIパーソナリティ「K・A・I・S・E・I」の6つの言葉をグループでの討論や研究を通して身につける。具体的にはコミュニケーションを養いながら、他者と協力する力、チームでプレゼンテーションを作り上げ、それを発信する力をつけていく。それと並行して行われるキャリア教育のプログラムから社会で働くこと・社会との関係について考え、自身の将来に意識を向けていく。授業は授業内容に合わせて、学年全体、学科別、またはクラス別に行う。

授業計画

1. ポートフォリオ(学生カルテ)
2. 海星の歴史と建学の精神
3. KAISEIパーソナリティと社会人基礎力
4. キャリアプログラム1「社会を知る」年金制度
5. キャリアプログラム2「社会で働く」とは
6. キャリアプログラム3「職種・業界」を学ぶ
7. キャリアプログラム4キャリアを考える
8. 「K:思いやり」人との共感
9. 「A:自律」これまでの自己の歴史をとおして
10. 「I:知性」耳を傾け、自らを考える
11. 「S:奉仕」他者と自己との関係
12. 「E:倫理」現代の日本社会を考える
13. 「I:国際性」ポータレスの世界 前に踏み出す力
14. 海星パーソナリティの理解と自分の振り返り
15. ポートフォリオ(学生カルテ)

授業の方法

講義または個人作業・協同作業、グループディスカッション、プレ

ゼンテーションなど授業によってさまざまな形で行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①各教員から課題が与えられる。フィールドバックの方法は教員によって異なる。
- ②平常点40%、定期試験30% eラーニング30%

欠席について

欠席1回につき、3点の減点とする。

テキスト

プリント使用

留意事項

eラーニングを課題とし、指定数を完了させること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健Ⅱ			17646	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
藪内 順子	選択	1	看護師、看護教員			

授業の到達目標

乳幼児期の基本的な生活への援助の仕方、保育現場で起こりうる子どもの疾病とその予防、救急時の対応や事故防止、安全管理に関する知識や技術を習得し実践力を身につける。保育における保健活動を理解し子どもの個別対応と集団全体の健康と安全・衛生管理について理解する。このクラスではK A I S E I パーソナリティーのK(思いやり)を考える。

授業の概要

子どもの安全で衛生的な生活を保障し、日々快適に過ごすための健康・安全に係る保健活動の計画や実践について学ぶ。また、子どもの基本的な生活への関わりや援助の仕方、子どもの疾病とその予防および事故防止や応急処置、救急救命法など演習や実習をととして実践力を身につける。

授業計画

1. 保育における保健活動①保健計画の作成と活用
2. 保育における保健活動②健康の取り組みの実践。成長・発達の観察と測定
3. 子どもの保健と環境①子どもの健康増進と望ましい保育環境
4. 子どもの保健と環境②子どもの生活習慣と心身の健康
5. 子どもの保健と環境③子どもの発達援助と保健活動
6. 子どもの疾病と適切な対応①感染症の予防と対策
7. 子どもの疾病と適切な対応②個別の配慮を必要とする子どもへの対応
8. 事故防止および健康管理・安全管理①けがや急な病気への対応の基本と救急法
9. 事故防止および健康管理・安全管理②子どもに起きやすい事故の応急処置
10. 事故防止および健康管理・安全管理③子どもの救急蘇生法
11. 事故防止および健康管理・安全管理④子どもの救急蘇生法
12. 事故防止および健康管理・安全管理⑤保育における看護
13. 事故防止および健康管理・安全管理⑥災害への備えと危機管理
14. 心とからだの健康問題と地域保健活動①子どもの養育環境と心の健康問題
15. 心とからだの健康問題と地域保健活動②心とからだの健康づくりと地域保健活動
まとめ
終講試験

授業の方法

講義および演習と実習。視聴覚教材、グループワークも取り入れる。グループでのポスター作製およびポスター発表も行う。

準備学修

日頃より衛生管理や安全管理を認識し、自己の健康管理にも注意を払う。事前に必ずテキストは熟読しておくこと。また、事前課題を提示するため、当日までに完成させておくこと。

課題・評価方法

平常点40% 定期試験60%
平常点は授業態度および出席状況、レポートの評価による。実習にふさわしくない服装や髪型、レポート等の提出期限を守らないの場合等は減点対象とする。
また、講義中の居眠り、雑談、不必要なスマホ操作なども減点対象とする。

欠席について

原則として欠席は認めないが、感染症による出席停止および忌引きなどの公欠となった場合は認める。欠席した場合、1回につき2点減点とする。

テキスト

①子どもの保健Ⅱ 佐藤益子 編著 ななみ書房 必要時プリント配布
②子どもの保健Ⅱ演習 白野幸子 著

参考図書

授業時に適時紹介する。

留意事項

演習には身なりを整え、動きやすい服装で出席すること（スカート、踵の高い靴は不可。顔にかかる髪はゴムで束ねる。）
予定として、AED講習を受講する。日程は後日連絡する。この講習は講義2回分とする。

教員連絡先

juno73@yahoo.co.jp

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの食と栄養			17650	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石島 多恵	選択	2	公立保育所保育士			

授業の到達目標

子どもの発育・成長に伴う食と栄養の基本を理解し、自ら考え、現場で対応できる力をつける。子どもの食生活がその後の人生の基盤となり身体が育成されることを学び、適切な食生活の在り方を指導できる力をつける。保育者は、子どもに最も近い距離にあり、多くを伝え、学ぶ機会を与えることの出来る立場となる。特に学ぶべきことは、栄養・食生活・身体発育の知識はもちろんであるが、その知識を思いやりを持って現場で伝える実践力を養うことにある。このクラスではKAISEIパーソナリティーのK(思いやり)、A(自律)、S(奉仕)を養う。

授業の概要

乳幼児期は、食生活の基礎が形作られる時期であり、子どもが健康な体を育成するためには食生活の正しい習慣付けは重要である。また、小児期の栄養は、保育者に委ねられることから、保育者が正しい栄養の知識と摂取方法、身体の仕組みおよび発達などを理解する必要がある。子どもの段階的な発育・発達を的確に捉え、その時期に必要な食生活と栄養について、現場で指導出来るように、多角的な栄養・健康の知識のみならず、自ら考える力や、実行する力も養うための発表形式の演習も取り入れる。食育基本法や児童福祉施設における食生活の現状や課題、及び特別な配慮を要する子どもの食生活と栄養について理解し対応出来る知識および方法を学ぶ。

授業計画

1. 保育における子どもの食と栄養
2. 子どもの心身の健康と食生活
3. 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
4. 食事の摂取基準と献立作成・調理の基本
5. 胎児期、乳児期の授乳・離乳の意義と食生活
6. 幼児期の心身の発達と食生活
7. 学童期、思春期の心身の発達と食生活
8. 幼児施設における食育
9. 食育の内容と計画および評価
10. 食を通じた地域の関係機関や職員間の連携
11. 食生活指導および食を通じた保護者への支援
12. 家庭における食と栄養
13. 児童福祉施設における食と栄養

14. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養
15. 子どもの食生活の現状と課題

授業の方法

講義および実践演習により行う。担当者による発表形式も取り入れる。

準備学修

Webで詳細を参照すること。
出された課題に前向きに取り組むこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

子どもの食と栄養 岡井紀代香 吉井美奈子 編 ミネルヴァ書房

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

教員連絡先

ishihata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については、教務課前掲し板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別活動論	教職小		17681	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
都賀 純	選択	2	公立小学校教員（担当指示主事）			

授業の到達目標

特別活動の意義、役割、今日の課題について学ぶ。子供の自己実現、人間関係づくり、望ましい集団活動のあり方について専門的な知識や指導力を身に着ける。KAISEIパーソナリティのI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

教育課程における特別活動の理念を把握し、目標、内容の理解を図る。学級活動の模擬体験や模擬授業を行う。さらに学校現場での実践、差風会活動等での映像を通して子供の姿を伝えることで、理解を深めていく。

授業計画

1. オリエンテーション、改訂の趣旨と目標
2. 基本的な性格と意義
3. 学級活動の目標と内容
4. 学級活動の指導計画
「学級や学校における生活づくりへの参画」の模擬授業
5. 学級活動の指導計画
「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の模擬授業
6. 学級活動の内容の取扱い
「一人一人のキャリア形成と自己実現」の模擬授業
7. 児童会活動の目標と内容
8. 児童会活動の指導計画と内容の取扱い
9. クラブ活動の目標と内容、指導計画と内容の取扱い
10. 学校行事の目標と内容
11. 学校行事の指導計画と内容の取扱い
12. 指導計画の作成に当たっての配慮事項 特別活動における主体的・対話的で深い学び
13. 指導計画の作成に当たっての配慮事項 全体計画・年間計画の作成とその留意点
14. 内容の取扱いについての配慮事項
15. まとめを行ってから試験をする。

授業の方法

講義と演習（模擬授業、ディスカッション、プレゼンテーション

等）を合わせて、創造的思考力を養う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

- ① 模擬授業1回、レポート提出（全3回程度）を求め、講義の中でフィードバックを行う。グループ発表後は、担当教員によるフィードバックを行う。
- ② 評価方法 平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき4点減点する。

テキスト

「小学校学習指導要領解説 特別活動編」 東洋館出版社（H29.6）

留意事項

出席と授業態度を重視する。意欲と主体性をもって、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育・教職実践演習（幼・小）			17686	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石島 多恵/佐原 信江/大岸 啓子	選択	2	公立保育所保育士、公立幼稚園教員、公立小学校教員			

授業の到達目標

保育・教職課程科目の学修や学校園での現場学習等を通じて、保育士・教員として必要な資質能力が、実践力としてどのように統合されたかを最終的に確認する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

実習で学んだことを振り返り、課題を確認するとともに保育者・教育者としての役割と責務についての認識を深めていく。職務への使命感、社会性や対人関係能力、また、学級経営能力や指導力を高め、保育者・教育者としての資質の向上を目指す授業を進める。

授業計画

1. 授業概要の説明、受講の心構え、これまでの学修の振り返り
2. 保育・教職の意義や保育士・教員の役割、職務内容、子どもに対する責任等についての討議
3. 社会性や対人関係能力（職場、保護者・地域との人間関係の構築等）についての講義・グループ討議
4. 幼児・児童理解や学級経営についての講義・グループ討議
5. 保育計画案・学級経営案の作成
6. 保育計画案・学級経営案の発表とグループ討議
7. 学校園現場の見学・調査①
8. 学校園現場の見学・調査②
9. 社会性、対人関係能力、幼児・児童理解、学級経営についてのグループ討議
10. 保育・教科の指導力についての講義・グループ討議
11. 模擬保育・模擬授業と討議①
12. 模擬保育・模擬授業と討議②
13. 事例研究とロールプレイング①
14. 事例研究とロールプレイング②
15. 目指す教師像と自己課題の確認

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

事前に課題を提示するので、レポートや作品等を作成すること。具体的な課題については、保育・教職（幼・小）の各担当教員から提示する。

課題・評価方法

- ① レポートや作品等の提出物については、担当教員による批評とアドバイスを行う。
- ② 評価方法は平常点70%、定期試験30%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

参考図書

厚生労働省『保育所保育指針解説書』、文部科学省『幼稚園教育要領解説』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』、フレール館、文部科学省『小学校学習指導要領』、わかば社『教職実践演習 これまでの学びと教師への歩み』

留意事項

自己目標・課題をもって意欲的に授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児指導論（カウンセリングを含む）			17729	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石畠 多恵	選択	2	公立保育所保育士			

授業の到達目標

幼児の心身の発達の道筋を理解し、幼児理解に基づく適切な援助・指導のあり方を学ぶ。幼児一人一人の発達課題に即した援助・指導や環境構成の意義がわかり、保育者の役割についての理解を深める。幼児教育にとって必要なカウンセリングマインドの基本と心構えを理解し、カウンセリングマインドの姿勢で幼児を受け入れ、幼児の理解者として、幼児の遊びの指導者として、保育者の役割を理解する。またカウンセリングマインドを通して保護者を理解する。このクラスはKAISEIパーソナリティのとA（自律）とI（知性）を養います。

授業の概要

教育とは、子どもの遊びを触発し、それを援助・組織して、子どもたちの発達を促す営みである。幼児教育を担う者にとって重要なのは、幼児の心身の発達や興味や関心を適切にとらえ、それに応じた具体的な環境を整えることで、自発的、能動的な活動を引き出すことが基本となる。幼児一人ひとりが、喜びと充実感を伴った学びの体験をし、成長する喜びを実感しながら発達に必要な体験を積み重ねていけるような援助や指導の方法を知ることが大切である。本講義では、幼児を援助・指導するという事の本質について、カウンセリングマインドの姿勢を通して、保育相談にも対応できるよう、具体的な事例を挙げながら指導する。

授業計画

1. 幼児指導の基本
2. 乳幼児期の発達と子どもの理解
3. 環境を通しての教育
4. 遊びを通しての指導
5. 幼児の主体性の育成
6. 保育者の役割
7. 遊びのなかの学びをはぐくむ保育（保育者の援助）
8. 遊びのなかの学びをはぐくむ保育（遊びの目的）
9. 保育形態による幼児の育ちと保育における評価
10. 幼児期の教育と小学校教育の連携と現状
11. 家庭や地域と連携した保育
12. 保育におけるカウンセリングマインドの基本的な心構え
13. 基本的な生活習慣の育ちを支援する

14. 子どもの健やかな育ちを支援する
15. 園生活に困難を抱える子どもを支援する

授業の方法

事例を多く取り入れ講義を進める。意見を発表したり、グループ討議をする中から、課題意識を持って主体的に取り組めるようにする。

準備学修

Webで詳細を参照すること。
出された課題には前向きに取り組むこと。

課題・評価方法

授業中の態度や提出物などを中心に、テストの結果と合わせて評価する。

欠席について

欠席は成績評価に反映する

テキスト

保育所保育指針解説 ・ 幼稚園教育要領解説
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

参考図書

保育カウンセリングマインドへの招待 富田久恵・杉原一昭編著
北大路書房
新保育ライブラリー「幼児教育の方法」 小田豊 青井倫子編著
北大路書房

教員連絡先

ishihata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。オフィスアワーの日時については、教務課前掲示板を確認すること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽科指導法			17733	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
南 夏世	選択	2				

授業の到達目標

教科「音楽」の意義を理解し、実態を視野に入れた授業を構成できる能力や、幅広い音楽活動の指導ができる技術を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）を養う。

授業の概要

『小学校学習指導要領（音楽）』の内容について理解し、音楽教育の歴史についての知識を習得するとともに、これからの音楽教育について考察する。歌唱指導・鑑賞指導・器楽指導のための教材研究ならびに演習や発表を行い、実態に適した音楽指導法を研究する。

授業計画

1. 「小学校学習指導要領（音楽）」の概説と理解
2. 「小学校学習指導要領（音楽）」の概説と理解
3. 楽典の基礎と他教科とのかわり
4. リコーダーの理解と合奏
5. いろいろな楽器の理解と奏法
6. 合奏教材と指揮法基礎演習
7. 歌唱教材の研究と演習
8. 歌唱教材の研究と演習
9. 鑑賞教材の研究（音楽の歴史）
10. 鑑賞教材の研究（日本の音楽・世界の音楽）
11. 音楽づくり
12. 日本の音楽教育
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. 振り返りと展望

授業の方法

講義と個人あるいはグループでの演習や研究発表。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法

- ① 授業で研究発表、演奏を行い、フィールドバックをする。

- ② 平常点50%、定期試験50% 各項目ごとの発表は平常点に反映する。定期テストは筆記試験を実施する。

欠席について

1回につき2点減点。

テキスト

初等科音楽教育法（音楽之友社）

参考図書

教育芸術社「小学校の音楽1～6」

留意事項

グループ演習も多いので、毎回の出席と積極的な活動を心がけること

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導A			17811	Ⅲ	春／秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石畠 多恵／渋谷 美智	選択	2	公立保育所保育士			

〈児童福祉施設実習〉

授業の到達目標

保育実習の意義・目的および実習の内容をを理解し、自らの課題を明確化する。なお実習を円滑に進めていくため実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習がより効果的に行えるようにする。また、子どもの人権と最善の利益、プライバシーなどの守秘義務について理解する。事後指導においては、自己評価を行い課題や学習目標を明確にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、E（倫理）を考える。

授業の概要

実習の意義・目的・方法を理解し、実習内容・心構え・実習記録の意義と記録の仕方について学ぶ。なお実習を受けるにあたり各教科の講義で得た知識をもとに「児童福祉施設とは」を理解し、機能や保育士の役割、子どもの理解、日々の子どもの生活や遊びの援助の仕方について習得し、保育現場での実践に結びつけられるようにする。事後指導では、自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にしていく。

授業計画

1. 実習の意義、目的、概要について理解する。
2. 各施設の役割と機能を理解する。①
3. 各施設の役割と機能を理解する。②
4. 施設実習の準備と心構えを理解する。①
5. 施設実習の準備と心構えを理解する。②
6. 実習における観察・記録・評価の仕方を理解する。
7. 実習記録の書き方を理解する。実践及び実習に関する諸手続
8. 実習についての心構え、留意事項などの確認(実習事後の御礼状の書き方なども含む)
9. 事後指導における実習の総括と自己評価、課題の明確化。

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

実習施設についての概要を事前に調べる。手あそびを数多く知るようにしたり、絵本の読み聞かせの練習をしたりする。

課題・評価方法

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

欠席は、1回につき5点減点とする。

テキスト

必要資料については随時プリントを配布する。

参考図書

あそびうた大全集 永岡書店
手あそび百科 ひかりのくに
実習の記録と指導案 ひかりのくに
3. 4. 5歳児が夢中になる実践!造形遊び ナツメ社

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児の発達過程をしっかり把握し、保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく。

教員連絡先

ishihata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

〈保育所実習〉

授業の到達目標

保育所実習の意義・目的および実習の内容をを理解し、自らの課題を明確化する。なお保育所実習を円滑に進めていくため実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習がより効果的に行えるようにする。また、子どもの人権と最善の利益、プライバシーなどの守秘義務について理解する。事後指導においては、「保育実習Ⅱ」に向けての課題や学習目標を明確にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、E（倫理）を考える。

授業の概要

保育所実習の意義・目的・方法を理解し、実習内容・心構え・実習記録の意義と記録の仕方について学ぶ。なお初めての保育所実習を受けるにあたり各教科の講義で得た知識をもとに「保育所とは」を理解し、保育所の機能や保育士の役割、子どもの理解、日々の子どもの生活や遊びの援助の仕方について習得し、保育現場での実践に結びつけられるようにする。事後指導では、「保育実習Ⅰ」の総括と自己評価を行い、「保育実習Ⅱ」に向けての新たな課題や学習目標を明確にし、より「保育実習Ⅱ」が効果的に行えるようにする。

授業計画

1. 保育所実習の意義・目的・概要について理解する
2. 保育所の役割と機能を理解する
3. 発達過程の理解を深める
4. 保育の計画について再認識し、理解を深める 実習指導案の書き方を知る
5. 保育内容の実践
6. 実習生個人票の作成およびオリエンテーションの受け方、事務手続について理解する
7. 実習記録の書き方を知る
8. 実習に際しての心構え、留意事項(事後の実習園に対するお礼状の書き方等含む)
9. 事後指導における実習の総括と自己評価・課題の明確化

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

欠席は、1回につき5点減点とする。

テキスト

保育実習指導の手引き（海星版）
必要資料については随時プリントを配布する。

参考図書

あそびうた大全集 永岡書店
手あそび百科 ひかりのくに
実習の記録と指導案 ひかりのくに
3. 4. 5歳児が夢中になる実践!造形遊び ナツメ社

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児の発達過程をしっかり把握し、保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく(絵本の読み聞かせ・制作・手あそび・歌など)

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。